

大阪市人権問題に関する意識調査の結果から 市民の人権意識を分析する

奈良教育大学名誉教授 中川 喜代子

1. はじめに：分析に当たって

2010年人権問題に関する市民意識調査の結果から、

- (A) 日常的に生起している様々な生活領域における人権的問題状況に対する回答者の態度
- (B) 差別や差別に関わる問題の解決について、積極的／消極的な意見に対する回答者の態度・意識

の2点について、それぞれ関連する質問項目(問2,問4)からスケールを作成し、そのスコア別に、以下の質問とクロス集計し、相関関係を分析することによって、とくに人権問題に関する意識・関心が低い層の特性を明らかにすることを目的としている。

- (1) 人権に対する関心度(問1)
- (2) 主要な個別の人権問題に関する基本的な意識の状況(問2)
- (3) 大阪市が取り組んでいる人権が尊重されるまちづくりに対する評価(問3)
- (4) 差別に関する基本的な認識(問4)
- (5) 住宅を選ぶ際の忌避意識(問6)
- (6) 人権問題に関する学習経験(問12)
- (7) 人権意識を高めるうえでとくに役立った学習(問12-1)
- (8) 人権意識を高めるうえでとくに役立った学習分野(問12-2〔分野〕)
- (9) 人権意識を高めるうえでとくに役立った学習形式(問12-2〔形式〕)
- (10) 自分自身をどのように思っているか(問13)
- (11) 同和問題を知ったきっかけ(問15)
- (12) 同和地区に対する差別意識の現状(問17)
- (13) 同和地区に関する差別意識がなくなる理由(問17-1)
- (14) 同和地区に対するイメージ(問18)
- (15) 同和地区に対するイメージを持った理由(問18-1)

- (16) 同和地区の人に対する就職差別の現状認識(問19)
- (17) 同和地区の人に対する就職差別の将来展望(問19-1)
- (18) 同和地区の人に対する結婚差別の現状認識(問20)
- (19) 同和地区の人に対する結婚差別の将来展望(問20-1)
- (20) 差別的な発言に対する態度(問21)
- (21) 「同和地区の人はこわい」等という話を聞いたことのある経験(問22)
- (22) 「同和地区の人はこわい」等という話を聞いた相手(問22-1)
- (23) 「同和地区の人はこわい」等という話を聞いた時の感想 (問22-2)
- (24) 同和地区やその住民との関わり(問23)
- (25) 外国籍住民とのつきあい (問29)
- (26) 回答者の諸属性との関係
 - ①回答者の性別(問25)
 - ②回答者の年齢(問26)
 - ③回答者の最終学歴(問31)
 - ④回答者の職業(問32)
 - ⑤回答者の現在の暮らし向き(問33)

2. スコアの算出方法

(A)人権問題に関する生活態度スコア

「ホテルや旅館がハンセン病回復者などの宿泊を断ること」をはじめ「結婚する際に、興信所や探偵業者などを使って相手の身元調査を行うこと」等、問2の(1)～(12)にあげられた様々な生活領域における人権に関わる状況に対して、「問題あり」との回答に5点、「どちらかといえば問題あり」に4点、「どちらかといえば問題なし」に2点、「問題なし」に1点、「回答なし」に3点(要するに、様々な人権的問題状況に対する否定的な意見の程度に応じた得点)を与えて、回答者一人ひとりについて合計点を算出すると、最大60点から最少12点のスコアを各回答者は得ることになる。このスコアは、様々な生活領域で生起する人権的問題に対する回答者の問題意識の敏感さ/強さの程度を示すと考えられるから、「人権問題に関する生活態度スコア」と規定した。

全回答者のスコア別分布は【表1】に示すとおりであるが、前記(1)～(26)の質問とのクロス集計を行うために、38点以下を「低」グループ、39～49点を「中」グループ、50点以上を「高」グループと、3グループに分けた。構成比は、「低」グループ：24.2%、「中」グループ：51.6%、「高」グループ：24.2%となっている。

(B)差別や差別の解決に関する態度・意識スコア

差別や差別に関わる問題の解決について、積極的/消極的な意見に対する回答者の態度・意識を聞いた問4の(1)～(12)の質問のうち、「差別は、人間として恥ずべき行為だ」や「あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある」等、差別や差別に関わる問題の解決に積極的な意見である(1)(3)(5)(7)(9)(11)について、「そう思う」との回答に5点、「どちらかといえばそう思う」に4点、「どちらかといえばそう思わない」に2点、「そう思わない」に1点、「わからない・回答なし」に3点を与え、他方、「差別は世の中に必要なときもある」や「差別されている人は、まず、自分たちが世の中に差別されないよう努力することが必要だ」等、差別や差別に関わる問題の解決に消極的な意見である(2)(4)(6)(8)(10)(12)について、「そう思わない」との回答に5点、「どちらかといえばそう思わない」に4点、「どちらかといえばそう思う」に2点、「そう思う」に1点、「わからない・回答なし」に3点(要するに、差別や差別に関わる問題の解決に積極的な意見に対する肯定的な態度・意識の程度に応じた得点)を与えて、回答者一人ひとりについて合計点を算出すると、最大60点から最少12点のスコアを各回答者は得ることになる。このスコアは、差別や差別に関わる問題の解決に対する様々な意見について回答者が積極的に受け止めているかどうかという態度・意識の強さの程度を示すと考えられるから、「差別や差別の解決に関する態度・意識スコア」と規定した。

全回答者のスコア別分布は【表2】に示すとおりであるが、前記(1)～(26)の質問とのクロス集計を行うために、35点以下を「低」グループ、36～46点を「中」グループ、47点以上を「高」グループと、3グループに分けた。構成比は、「低」グループ：21.6%、「中」グループ：55.2%、「高」グループ：23.2%となっている。

【表1 人権問題に関する生活態度スコア分布と階層区分】

スコア分布	回答者数	カテゴリー			
12点	2	173 (24.2%)	低		
13点	0				
14点	0				
15点	0				
16点	0				
17点	0				
18点	1				
19点	1				
20点	0				
21点	2				
22点	1				
23点	0				
24点	2				
25点	4				
26点	1				
27点	3				
28点	4				
29点	11				
30点	4				
31点	6				
32点	20				
33点	7				
34点	12				
35点	13				
36点	38				
37点	15				
38点	26				
39点	23			370 (51.6%)	中
40点	29				
41点	27				
42点	31				
43点	45				
44点	32				
45点	31				
46点	46				
47点	24				
48点	42				
49点	40				
50点	36	173 (24.2%)	高		
51点	24				
52点	23				
53点	20				
54点	16				
55点	17				
56点	13				
57点	8				
58点	5				
59点	4				
60点	7				

【表2 差別や差別の解決に関する態度・意識スコア分布と階層区分】

スコア分布	回答者数	カテゴリー	
12点	0	155 (21.6%)	低
13点	0		
14点	0		
15点	0		
16点	1		
17点	1		
18点	0		
19点	2		
20点	3		
21点	2		
22点	1		
23点	2		
24点	5		
25点	9		
26点	5		
27点	4		
28点	5		
29点	12	395 (55.2%)	中
30点	11		
31点	15		
32点	17		
33点	20		
34点	25		
35点	15		
36点	68	166 (23.2%)	高
37点	30		
38点	32		
39点	22		
40点	36		
41点	41		
42点	40		
43点	26		
44点	41		
45点	26		
46点	33		
47点	20		
48点	35		
49点	22		
50点	13		
51点	18		
52点	17		
53点	10		
54点	4		
55点	8		
56点	6		
57点	7		
58点	2		
59点	2		
60点	2		